

# 製造業 X M L 推進協議会 設 立 趣 意 書

2002年9月20日

財団法人 製造科学技術センター

我が国の製造業を取り巻く環境は厳しく、今後ともグローバルな視点での競争力の維持、発展を図る必要があります。このような環境の中、企業はそのコアコンピタンスを高める観点からも、その活動の迅速化や組織、企業の枠を越えた柔軟な連携の必要性が重要となってきています。

この課題に対応するには、企業内の設計、開発、生産管理、販売等の各部門間はもとより、サプライチェーンマネジメント（SCM）、電子商取引（EC、B2B、B2C）等の言葉に代表される、異組織横断的な分野における各種データ・情報の統合／連携の実現が不可欠であり、また、その技術の確立成否が将来の企業活動を左右する可能性もあります。

したがって、情報通信分野で各種データ・情報の統合化、相互連携の実現に有力な手段として注目され、World Wide Web Consortium（W3C）等で標準化が進められ国内では JIS-TR 化も行われている XML（テキスト形式の拡張可能なマーク付き言語、eXtensible Markup Language）に着目し、Web サービスの視点も含め製造分野での具体的活用に向けて、その可能性を検証していくことは、製造業の持続的発展を保障する重要技術課題と言えます。

この重要課題にどの様に対応するべきか調査を行うため、当財団では、平成13年度に製造業 XML 検討委員会を設置し製造業における XML の活用に関する調査を行い、工場等の生産現場における各種サブシステムの XML による統合化を中心に、製品設計分野、企業システムとのインタフェースをも視野に入れ、XML の活用の可能性を検証するとともに、各分野間の統合／連携のため、共通仕様の作成及び普及に関する活動を行うことが必要との結論を得ました。

このため当財団では、これらの製造業 XML に関する活動を実施する「製造業 X M L 推進協議会」を設立することとしました。本協議会では、XML に関心を有する産業界、学术界の多くの有識者の参加を得て、目的達成に向けて具体的検討を進めることとしています。

## <活動の概要>

製造業 X M L の確立を目指して、以下の活動に関して委員会を設けて実施することを計画しています。

### 1．調査研究

- ・ 製造業 XML 確立に向けたロードマップ作成
- ・ XML 適用例の検討（Web サービスを含む）
- ・ 内外の XML 活動に関する動向調査

### 2．多分野における統合、連携

- ・ 関係する諸団体との調整、連携、統合
- ・ アプリケーション連携に必要な仕様作成  
メッセージング形式、分野毎のタグ定義の共通化、ディレクトリサービスなど
- ・ 製造業全体で共通となる仕様作成
- ・ 関係する諸団体の標準化活動の支援

### 3. XML 普及のための活動

- ・ XML 利用および活動成果に関する広報
- ・ 製造業 XML に関するポータルサイトの構築
- ・ インターネットを活用した XML データ交換に関する Web サービス等による認証体制検討

#### < 運営方針 >

本協議会は会員制度により運営することとし、総会、運営委員会のほか、目的を達成するために必要な各種の調査研究、技術検討等のための委員会を設置します。

#### < 会員制度 >

本協議会の会員制度は次の通りです。

##### 1. 会員の種別

正 会 員（法人及び任意団体）

準 会 員（非営利目的の法人及び任意団体）

個人会員（法人への所属の有無にかかわらず 1 個人として登録）

学会会員（会員の推薦により協議会が承認した学術及び実務経験者 [ 個人が対象 ]）

##### 2. 会費（年度毎：4月1日～翌年3月31日）

正 会 員 10万円（平成14年度は5万円）

準 会 員 無料

個人会員 1万円

学会会員 無料

##### 3. 入会金

10万円

（ただし、準会員、個人会員、学会会員及びMSTC賛助会員は無料）

MSTC は「(財)製造科学技術センター」の略称です。

##### 4. 会員の権利

正会員 : 投票権、提案権、委員会参加権

準会員、個人会員、学会会員 : 提案権、委員会参加権（ただし、委員会の承認が必要）

\* 投票権：提案された仕様案の可否、仕様発行の可否、運営に関する決議事項の可否等の投票に参加できる権利

提案権：仕様案の提案を行える権利

委員会参加権：委員会に参加できる権利

#### < XML を製造業に活用するメリット >

開発、設計、生産、販売等に関する製造業が抱えてきた膨大な情報を XML という標準技術をベースに統一化することにより、過去の資産の活用、情報共有範囲の拡大、情報伝達の加速化、情報連携の柔軟性および耐故障性などを飛躍的に向上することが出来ます。また、各工程や各機器について XML を軸に結合することにより、リプレイスやメーカー、設置時期を越えた連携が非常に容易となります。しかも、XML は汎用技術であるので、低コストで実現が可能です。

現在、日本は構造的変化に直面しており、製造業においても企業系列や国籍を超えた連携が日常に行われています。この連携には情報を交換する言葉が重要です。タグ付きという製造業で用いられた形式で、しかも、個々の事情に合わせたカスタマイズが可能なデータ表現である XML を用いることで、時間や企業風土を超えた連携が可能となります。特に、製造工程の細分化と再組織化の要となるのが XML です。

本協議会では、世界一の製造技術を持つ日本の製造業が中心となって、製造業向けの XML およびデータ交換方式を連携・統合化することを目指しています。このようなインフラを整備することで、機器リプレースの迅速化、マルチベンダー化、アウトソーシング、企業連携などの製造業の再組織化を促進することも可能です。

参加企業には、本協議会の主務であるインフラ造りと平行して、インフラ上での独自のビジネスモデルを早期の段階から構築することが可能となります。

< 設立発起人 >

(株)デジタル

三菱電機(株)

日揮(株)

日本電信電話(株)

(株)日立製作所

(株)山武

マイクロソフト(株)

横河電機(株)

社団法人 日本電気計測器工業会

P S L X コンソーシアム

社団法人 日本ロボット工業会

日本 O P C 協議会

F A オープン推進協議会

新 誠一（東京大学大学院 情報理工学系研究科システム情報学専攻 助教授）

福田 好朗（法政大学 工学部経営工学科 教授）

西岡 靖之（法政大学 工学部経営工学科 助教授）

以上